

議会運営委員会 行政調査報告書

1. 日程及び調査先

日 程：令和4年2月2日（水）午後1時半～午後3時

調査先：宮城県柴田町

2. 調査事項

議会改革の取り組みについて

- ・市民参加型政策サイクル
- ・その他（取り組みの概要及び状況、課題等）

3. 調査方法 オンライン会議

4. 参加者 委員長 奥山 格 副委員長 安井一義 委員 伊藤 浩
委員 鈴木裕雅 委員 鈴木 清 委員 星川 薫

5. 報 告

《委員長 奥山 格》

柴田町の議会基本条例は、制定後も2年ごとに条例の目的が達成されているかを議会運営委員会において検証している。検証の方法は、条例のチェックシートを使用して、年間の実施状況、実績を確認している。検証の結果、条例の改正が必要な場合は適切な措置を講じている。

柴田町の議会基本条例では、柴田町議会会議規則に定める会議、委員会及び全員協議会において、議案の審議及び審査に当たっては、町長その他の執行機関及びその職員に対する会議等への出席要請を必要最小限にとどめ、議員相互間の自由討議が積極的に行われるよう努めている。

議員間の自由討議は、主に論点を把握するために行なっているようである。その時に大切な考え方として、討論ではなく、対話という考えを重視していた。自由討議をするようになったきっかけは、柴田町総合体育館建設に関してであり、論点を整理するために実施したものである。その後、予算審査、決算審査についても実施するようになった。最初に決算特別委員会で全員協議会において、ワールドカフェ方式により議員間討議を実施した。決算の分析、総括質疑、委員会質疑を踏まえて、全体に感じること、各種会計の主要な施策、及び、予算の執行の実績を踏まえて、①足りない視点、施策、事業、②さらに進めた方が良い施策、事業、③やり直したほうが良い施策、事業、④やらなくても良い施策、事業と4つに整理した。

ワールドカフェ方式による自由討議とは、「席替えをする井戸端会議」であるという。しかし、これには話し合いのルールがある。それは、事実に基づいて議論する。自分の意見だけが正しいとは思わない。ありとあらゆる角度から検討する。沈黙を大切にする。書き出してつなげる。そのようなワールドカフェについて研究している人を、議会アドバイザーにしていた。早大マニフェスト研究所の招聘研究員の佐藤淳氏である。柴田町以外の自治体の議会でも講師として呼ばれて教えておられるようである。

柴田町議会では議員間の自由討議により論点を拾い上げて、さらにそれらを会議で検討審議して、要望や提言としてまとめたものは、町長に要望、提言をしているようである。しかし、それらは必ずまとめなければならないというのではなく、議員間討議の結果まとまった場合に行なうということであって、必ずまとめて行わなければならないのではないということであった。

柴田町議会では、通年議会制をとっていることもあり、議会の運営、政策のサイクルにして、議会の様々な活動をつなぎ、議会の権能を発揮しやすい体制にしようとしている。これにより、従来以上に議会が具体的に政策立案や政策提言を行うことが可能になるように考えている。決算審査時に従来の質疑終了後に議員間討議を行い、議会としての提言を行い、提言に対する措置については、年度予算審査時に回答を求めるというふうにある。

また、常任委員会でも2年間の共通のテーマを設定し、委員会活動を行い、先進地視察などを行い、執行部への提言をすることを目標として活動するものである。

また、団体懇談会を議会から常任委員会ごとの開催に変更し、常任委員会のテーマに基づいた団体を設定して実施するなどである。

柴田町議会基本条例では、議員も議会も市民に対して説明責任を果たすことが求められている。また毎年2回以上の町民との議会懇談会を開催することになっている。そのために市民への呼びかけをしている。また一般町民に対する懇談会では、懇談テーマを設けて開催している。開催前には町民と事前に学習する機会として、「公開議員研修会」を開催している。

また、議会図書室に本が充実していたが、各常任委員会から委員を一人ずつ選出し、議会図書管理委員会を設置し、町の図書館司書に依頼して、選書してもらっていた。図書の購入予算は年間13万3千円という。

以上、柴田町で行っている会議における議員間の自由討議により事業等の論点を拾い上げ、課題を検討して、提言や要望にまとめ上げていくことは、参考にすべきであり、そのためのワールドカフェの方式の考え方やルールなどを研究していけば、尾花沢市議会の議案の審議及び審査に当たって、議論を十分尽くすことができるものになるのではないかと思った。

また、柴田町の議会アドバイザーであり、ワールドカフェについて研究されてい

る、早大マニユフェスト研究所の招聘研究員の佐藤淳氏は、柴田町以外の自治体の議会でも講師として呼ばれて教えておられるようであるので、尾花沢市議会においても一度研修会の講師を依頼してはどうかと考える。

また、本市においても、議会図書室の充実などは、議員活動をするうえで不可欠ではないかと思うところでありぜひ参考にすべきと思った次第である。

《副委員長 安井 一 義》

議会基本条例に基づく議員活動の検証についての説明で、いつ、だれが、どのように行うかが大変わかりやすく規定され実施され参考にすべき。ぜひ尾花沢市議会でも基本条例に基づき進める必要があると感じた。また議会アドバイザーとして第三者に委嘱しアドバイスを頂ける環境も素晴らしい。チェックシートを活用した、どこに改善されどこが問題なのかどこが出来ていないかが一目できる。

次に、ワールドカフェ形式での議員間自由討議の導入成果は政策提言につながる話し合いがスムーズに進み二元代表制の議会としてのより深いまとまりが出来ている。平成17年より実施されており様々な取り組みとともに現在の形になったことの説明があり、早い時期の本市での取り組みが必要。ワールドカフェ形式の技法は報告会や懇談会ではできない論議を深めることができ、ぜひ実施できるよう進める必要がある。議会の運営全般を工程表に映しこみ進捗がわかることがぜひ必要と感じた。次に常任委員会の在り方については当市議会では議会だより編集委員会が該当すると考えるが、常に活動している事、また広報広聴の意味合いからも委員会化したことでのデメリットなしの説明より常任委員会化すべきと感じた。

次に、令和2年7月に導入されたタブレット活動について見えてきた課題については活動開始までの各議員の操作技術の習得にあるとのこと全員ができるまで指導が必要。各自のできるようになるまでのモチベーションアップが必要。タブレット使用に向け使うと決めたが使えるようになることが第一ではないか。

《委員 伊藤 浩》

メインテーマ 議会改革の取り組みについて

(1) 議会基本条例に基づく議員活動の検証

2年毎に議会全体で、条例の目的達成度をチェックしている事が印象に残った。条例が制定されれば終わりというパターンが出易いと思うが、アドバイザーも加えた評価を行い、P-D-C-Aのサイクルを回す事で、初めて条例の成果が出される事を痛感した。

(2) ワールドカフェを活用した自由討議について

当市議会の全員協議会に匹敵するものであろうと思うが、ワールドカフェ会議手法を取り入れる事で、自由な意見交換を行えるのではと感じた。各テーマ毎に運用の違いはあったが、何よりも他の議員の意見を尊重しながら行っているところは、大いに見習うべきと感じた。

(3) ICT化の推進について

タブレットを導入してあまり時間が経っていないが、多方面で有効活用が出来ていると感じた。当市議会でも間もなく導入されるが、指摘にもあったアフターフォローをしっかりと行いながら色々な運用に取り組んでみたい。

(4) 議会報告会について

私自身として一番関心のあった項目である。やはり大事な事は「やってみる事」を再認識出来た。スタート当初は暗中模索の部分も出てくると思うが、当議会が経験した事の無いテーマであり、早期の開催を実現したい。我々議員は、常に現場の状況と市民の声を聴きながら活動に繋げなければならない責務があると思う。又、議会活動を少しでも市民の皆さんに理解していただく必要もある。議会と市民が、キャッチボールのできる議会報告会を実現していきたい。

《委員 鈴木裕雅》

令和4年2月2日に柴田町議会の議会改革の取り組みについて視察研修をオンラインにより行った。

柴田町議会では、政策づくりと議会としての行政監視機能を検証しており、議会アドバイザーによる評価を得て議会行動計画を定め、条例に基づくチェックシートによって2年サイクルでPDCAを行っている。検証することにより振り返りのきっかけを作っている。また、自由討議により議会の意見の洗い出しを行い、一致点を探し全体の違いの絞り込みを行うなど、少数意見を積極的に取り入れられていると感じた。

議会報告会では、ワールドカフェ方式により市民が話しやすい場をつくり、意見を積み上げ集約。政策作成につなげている。テーマを参加者の関心が高いものに合わせるなど、活発な意見が出やすい雰囲気づくりに努めている。

尾花沢市議会は、議会改革の進むべき方向を定め切れていない。市民にとってより身近で関心の高い議会とするためには今後も試行錯誤を繰り返しながら、柴田町議会のような取り組みを今後とも参考としたい。

《委員 鈴木 清》

◎宮城県柴田町議会「議会改革の取り組みについて」

「議会改革度調査 2020」ランキングで全国 7 位の柴田町議会は、令和 2 年度に町村議会特別表彰を受けている。表彰理由は次の 3 点に該当している。

1. 政策づくりと監視機能を十分発揮している議会
2. 住民に開かれた議会
3. 地域振興のために特別な取組み（災害対応）をした議会

私たちの山のような質問に、資料を添えて丁寧な回答をいただいた。私たちの議会からみると、柴田町議会は仰ぎ見る富士山のような。議会改革の登山道をみんなで一步一步踏みしめて歩き始めた私たちから見ると、柴田町議会の歩みと資料は宝の山のように貴重だ。以下特筆すべきものを記したい。

1. 議会基本条例に基づく議会活動の検証

2 年ごとに議会アドバイザーの評価も得て、チェックシートを基に検証し、行動計画を立てている。そのためには議員間の自由討議が大切だとしてワールドカフェの手法を用いている。予算・決算を軸にした政策立案・提言を行い、政策サイクルを回して見事だ。蔵書 1,000 冊という議会図書室の充実も素晴らしく、タブレット端末の導入は私達にも課題である。

2. 住民に開かれた議会

私達がまだ行っていない議会懇談会（報告会）がとても参考になる。行政職員と住民にも開かれた公開議員研修会が素晴らしく、高校生との懇談会も参考になる。議会広報委員会は平成 23 年より常任委員会化しており、何もデメリットはないという。私達も常任委員会化を検討しており、住民との情報共有と読まれる議会だよりにチャレンジしていきたい。

最後に議会基本条例は作って終わりではなく、検証し創造するもの、政策サイクルを回し、住民と共に住民自治を前に進めるものであることが腑に落ちた。

《委員 星川 薫》

議会改革の取り組みについて（オンライン方式）

柴田町議会は令和2年度町村議会表彰において、特に顕著なる事績があると認められ「特別表彰」を受賞なされた議会である。審査項目は「政策づくりと監視機能を十分発揮している議会」、「住民に開かれた議会」、「地域振興のために特別な取り組みをした議会」であるが、どの項目においても実績が素晴らしく今後の尾花沢市議会基本条例の制定の参考としたい。

下記に取り組みされている例を挙げる。

◆ 政策づくりと監視機能を十分に発揮している議会

- ・議会基本条例に基づく議会活動の検証（2年ごと検証）
- ・ワールドカフェを活用した自由討議（議員間対話）
- ・常任委員会の調査活動（通年議会制を活用した積極的な所管事務調査）
- ・予算決算審査を軸とした議会政策サイクル（予算編成及び事務事業執行について留意点を附帯決議としたことや提言項目を執行部に提出）
- ・議会図書室の充実（地方自治、政治、法律、財政、教育など1千冊）
- ・ICT化の推進（ペーパーレス化、情報共有、調査研究活動、災害発生時の安否確認や災害情報の共有化）

◆ 住民に開かれた議会

- ・議会懇談会（「一般懇談会」、「団体懇談会」、「柴田高校との懇談会」）
- ・公開議員研修会（有識者を講師として招いた研修会に、町民や役場職員、近隣市町村議会議員が参加）
- ・高校生との懇談会（柴田高校との懇談会をワールドカフェ方式にて毎年開催）
- ・議会広報の取り組み（「柴田町議会だより」5年連続表彰）

◆ 地域活性化のための特別な取り組みをした議会

- ・災害時等の議会の取り組み（東日本大震災時の経験をもとに、「柴田町長議会災害対策本部設置要領」及び「柴田町議会災害対策行動マニュアル」を制定し、情報の収集や緊急対応が必要な情報を町対策本部に提供。「新型コロナウイルス感染症対策に関する要望書」など）

上記の内容をご教授していただいた後に闊達な質疑応答が行われ、あっという間の1時間30分であった。この度も、昨年同様にオンラインによる視察研修となったが、委員もコロナ禍の中で充実した内容の濃い研修が出来たことは大いにプラスになり、今後の市議会の在り方や市議会基本条例の制定に大いに寄与するであろう。